

「安定した物流を担い続けることが使命」

日本一安全な会社を目指し「安全初夢大会」開く

アサヒロジスティクス



アサヒロジスティクス（横塚元樹社長）は18日、さいたま市のラフレさいたまでサービスドライバードライバー（SD）をはじめ同社社員約300名が参加して恒例の「安全初夢大会」を開いた。

この大会は、「日本一安全な会社」を目指し、社員の安全意識の高揚を図ることを目的に98年から毎年行われているもので、今回で17回目を迎えた。

前年1年間の事故削減による自動車保険料や修繕費などの削減費を原資として、乗用車や大型テレビなどの商品に換え、3年間無事故で、ドライブレコーダーによる同社の基準で88点以上の得点をあげたSDに抽選で還元するもので、今年は約400名が対象となった。また、昨年8～9月の無事故キャンペーンで成績優秀者と低燃費キャンペーンでの成績優秀者の表彰も行われた。

安全品質部の茂木勝美部長の開会の挨拶の後、挨拶に立った横塚社長は、「昨年を振り返ると、2月に相模原、4月にデリースタッフの新潟、5、6月に川越、仙台と4カ所の拠点を開設することができた。当社には、お客様へ仕事をもらいに行く営業マンは一人もいないが、40年以上、毎年仕事が増え続けており、売り上げが前年を下回ったことはない。それは皆さんが営業マンとして仕事を取りにいくのでは

なく、正しい仕事を積み上げていき、それをお客様に評価していただいているからだ。私たちは日本の食生活を支える物流インフラ企業であり、すべての方が安心して生活できるように、安定した物流を担い続けるのが使命だ。お客様に満足していただければ、皆さんに気分よく働いていただく会社作りができる。そして、物流という仕事に魅力を感じ、物流をやりたいという人がたくさん出てきてもらいたい、と当社の経営理念でうたっている。今月の28日、当社は60周年を迎える節目となる年。今までのアサヒから脱皮する年だと思っている。次のステージへ向かうという気持ちを全員が共有して良い1年にしたい」と年頭の所感を述べた。

次に、「日常点検と雪道対策」を主題に実践発表が行われた。発表では始業前点検と日常点検の違いを、タイヤチェーンの装着手順を実践した。その後、小川修副会長の乾杯の音頭で歓談に入り、恒例の抽選会では、無事故賞80本と当日賞25本の抽選が行われ、1等賞の乗用車（マツダ・デミオ）は滑川営業所の菊田和則さんが獲得した。



「日常点検と雪道対策」の実践発表